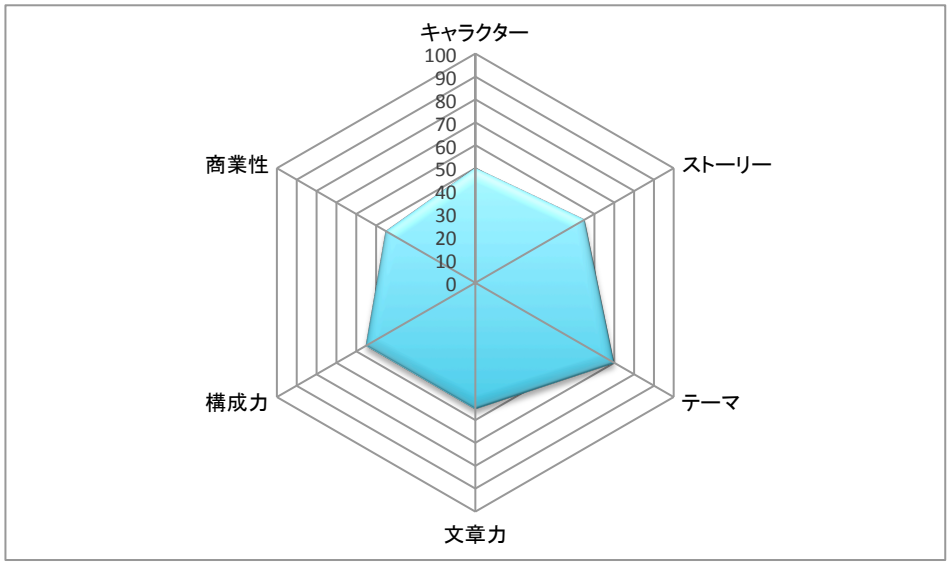
第1回　ライトノベル作法研究所主催　大夏祭り大会　選評評価シート

作品名：「アウロの魂」　　テーマ：「僕なのに、僕が好きな美少女」

キャラクター	ストーリー	テーマ(設定)
50	55	70

文章力	構成力	商業性
55	55	45



・見受けられる基礎的な問題点

	・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
	・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
	・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
●	・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
	・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がりに欠ける
	・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
	・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
	・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
	・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
	・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
	・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
	・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
	・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
	・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
	・「この作品の最大の魅力はこれ！」というものがない

・総評（もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話）

・ライトノベルらしい面白さは少なかったが、一般的な文学(？)として魂の繋がりに執着する主人公という設定は非常に面白かった。残念であった点として、その主人公が何か能動的な行動をとるかというとそうでもなく、かなり自己愛に重心をおいた心情吐露が目立ち方向性に欠け、印象にあまり残らず残ったとしてもあまり良い印象ではないという点が少しもったいないか。(例えるならば太宰作品を読んでいる印象。エンターテインメント性にはかけるが、主人公の自己愛がひたすら深堀りされるという純文学的な面白さにはあふれているように感じる。恐らく今回の企画がラノベ企画ではなく太宰ファンクラブによる企画だったら点数は跳ね上がったように思う)
・一番好感をもてたのは一周回って占い師。ラノベ的な意味では読んでいてこのキャラクターが一番栄えていて面白かった。
・異性バージョンの自分自身と対話するという設定自体はラノベにしろ純文学にしろ非常に面白いと感じる。いっそのこと亮子を鏡の中にとどめず鏡の中から二つ目の肉体として出してしまうくらいのファンタジー感があってもラノベとしては良かった気がする。二人で同一の障害にぶちあたるが結局二人とも考えることは一緒でお互いがお互いを「役立たず」と思うといったストーリーラインはエンターテインメント性には溢れる作品になると思われる。

合計加点ポイント 0

総得点：　330 / 600

B方式総合得点：　18150 点